

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動が制限される中、十分な対策を検討したりリモートで実施したりして、従来の行事や活動と変わらない教育効果をあげることができた。 ・地域連携についてもBWプロジェクトを中心に、できる範囲内で必要な教育活動と広報活動ができた。来年度以降も引き続き、地域連携の充実を図り、生徒の自己肯定感の醸成とキャリア教育の充実につなげていく必要がある。 ・授業でのICT利活用とリモートによる集会の実施などICT機器を利用する頻度はかなり増えているが、今後、臨時休校になった際のオンライン授業が適切に実施できるか課題が残る。 ・本校生徒の特性を十分に踏まえ、基礎学力の向上、規律やマナーに関する生徒指導(校内美化を含む)について、職員の共通理解を図り、強化していく。また、いじめの早期発見・早期対応のため情報共有など職員の意見交換の場を適切に設ける必要がある。 ・追認指導の在り方などを検討し、業務の削減と会議の縮減、柔軟性のある定時退勤日の実施など時間外勤務の減少につながる方策を実行していく。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、高い志を持って地域社会に貢献する人材を育成する。」 校訓『自律・挑戦・感謝』の精神で心と体を成長させ、大空(社会)に羽ばたいていく生徒を育成する。
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	学校スローガン『青翔魂！昨日の自分を超えていけ！』を合言葉に、 ①地域に愛され、地域に信頼される。 ②志を持ち、夢の実現のためにベストを尽くす。 ③失敗を恐れずチャレンジする。 ④自分と他人を愛する。 ⑤綺麗で安心な学校をみんなで作る。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○基礎学力の向上のため、継続的な学習の習慣をつける	○朝の青翔タイム(学び直しの時間)を継続的に行うなかで、基礎的な学力の定着を目指す。 ○毎朝15分の青翔タイムを落ち着いた静かな雰囲気の中で学習させる。 ○青翔タイムの時間を大事に行うためにも、遅刻の数を20%減少させる。	○各学年で、生徒の現状に合わせた共通の取り組みを行い、年間を通して一貫した指導を行う。 ○青翔タイムが始まる前に職員が早めに教室に行き、8時30分より落ち着いた雰囲気の中で青翔タイムをスタートできるようにする。 ○組織的な遅刻指導を行い、保護者と連携して指導にあたる。	B	・青翔タイムの時間を使い、各学年で進路や学び直しなどの目的を持って、生徒の実状に合わせた取り組みができていく。 ・校門指導や各学年での生徒への呼びかけを日々行っていたいので、落ち着いた雰囲気の中で青翔タイムが行えている。 ・遅刻、欠席の累積指導を行っているが、まだ同じ生徒の指導が多いので、諦めず引き続き指導を行っている。	A	・青翔タイムが始まる時間には、どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で学び直しに取り組んでいる。 ・登校指導当番の先生以外でも、校門指導を手伝っているため、生徒は始業時間を意識した行動が出来る。 ・遅刻、欠席の累積指導を行い、個別に生徒の現状を聞き、対応策などを話している。しかし、特定の生徒の遅刻、欠席があまり改善できなかった。
	○ICT利活用教育の実施	○社会に貢献する人材の基礎となる能力の育成のため、1年次生の全商ビジネス文書実務検定3級の合格者を60%以上にする。 ○生徒に合った教材作成に向け、職員のICTに関する基本的なスキルアップを図り、ICTを利用した自主製作教材を20件以上にする。	○「社会と情報」の授業等を活用し、タイピングや文書作成の練習パソコンの知識を学ぶ機会を設ける。 ○ICT支援員と協力しながら、職員の教材作成をバックアップしていく。他校で行われている取り組みなどの情報を共有し、より効果的なICT利活用教育を目指す。	B	・「社会と情報」の授業等を活用し、タイピングや文書作成の練習および1年次に全商ビジネス文書実務検定3級を全員受験を行い、70%程度の生徒が合格できる力を持っている。 ・ヘルプデスク現地員と協力しながら、教室での電子黒板の使用に関する全般的な支援から、オンライン授業に向けた学習用PCの活用の支援など行っており、引き続き、生徒、教師ともに支援を行ってほしい。	B	・「社会と情報」の授業等を活用し、タイピングや文章作成を行い、個人のスキルアップが見られる。また、1年次に全商ビジネス文書実務検定3級を全員受験を行い、47%の生徒が合格できた。 ・ヘルプデスク現地員と協力しながら、教室での電子黒板やそれに関連するネットワーク等の整備、支援を行うことができた。また、オンライン授業に向けた学習用PCの管理、教師・生徒への支援を行っていただいた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「豊かな心を身に付ける教育活動が行われている」と回答する割合を80%以上(生徒・保護者・職員で)にする。	○HR活動では、本校の生徒に理解しやすい内容の講話などを行い、振り返りの機会も設ける。 ○日々の授業の中でも、生徒に豊かな心を身に付けるために話をするなど、職員が生徒のために必要な情報を常に意識する。	B	・各クラスで生徒の特性と合わせて、様々な取り組みを行い、個別での面談などを通して、豊かな心を身に付ける指導に取り組んでいる。 ・授業の進捗度が優先になりがちなので、余裕を持って生徒に話をする機会を少なく。もっと計画的な指導と、段階を踏まえた場面で生徒のために話をしなければならぬ。	B	・各クラスでのHR活動や定期的な講演会など、生徒は落ち着いた雰囲気の中で聞くことができ、日ごろの授業や生活も落ち着きが見られ、良い雰囲気になっている。 ・授業では、様々な機会が生徒に話をする先生も増えている。しかし、聞いた話を踏まえ前向きに行動できている生徒は少なく感じる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめの早期発見に努め、「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」学校づくりが行われている」と回答した教員が90%以上にする。	○年に3回以上、学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見に努める。 ○全校集会や担任等を通して、いじめ問題やSNS・ライン等の適切な利用について指導する。 ○いじめと思われる場面を発覚した場合、学年主任・担任等に報告し、情報を共有できるようにする。	B	・学校生活アンケートを実施し、早期発見に努め、その内容に問題がある場合は個別に相談に乗るなどの対応ができていく。 ・いじめやSNSの使い方などについて注意喚起をおこない、また警察署から講師を招いたSNS利用についての講演会を実施した。 ・いじめと思われる場面を発覚した場合は、担任・学年主任などに連絡をすることができている。	B	・いじめの早期発見・早期対応をしているという教職員評価が95%に達することができた。 ・年間4回はいじめに関する学校生活アンケートを実施し、問題があった場合にはすくに対応することができた。 ・昨年度、いじめ認知件数が11件であったが、今年度は3件になった。しかし人間関係のトラブルは起こっているため、教職員で注意深く見守っていく必要がある。
	○自己肯定感の醸成	○学校評価アンケートで「部活動や生徒会活動など活発である」と回答する生徒を80%以上にする。	○昨年度できなかった部活動体験入部を実施し、部活動加入率を上げる。 ○各部活動の試合や大会の日程をホールに掲示し、全校生徒の目に触れるようにする。入賞した場合は全校表彰をする。 ○生徒会活動の一環として挨拶運動や清掃活動などを定期的に行う。	B	・4月に部活動体験入部を実施することができた。4月当初の部活動加入率は67.7%だった。3年生が抜け後の部活動の活性化が後期の課題である。 ・高校総体や九州大会出場者への激励会を行った。数は少なかったが部活動の入賞者に対して表彰できた。 ・6月に3日間、生徒会役員と1年生の立候補者による朝の挨拶運動を行った。後期も実施したい。	A	・学校評価アンケートで「部活動や生徒会活動が活発である」と答えた生徒は82%だった。「わからない」と答えた生徒は17%だったので、あいさつ運動や清掃ボランティアなど、もっと全校生徒にわかりやすい生徒会活動を行う。 ・運動部の試合の予定や部員の意気込みをホールに掲示した。試合の結果や文化部の成績も掲示し、表彰式を4回行った。 ・学校のことが新聞に掲載されたときは、その記事も校内に掲示した。 ・ホールへの掲示や表彰を行うことによって生徒の自己肯定感を高めることができた。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を育成していくに当たり、特に朝食をきちんと摂ることが高校生の心身の健康にかかわりがあることを知らせ、朝食摂取率の割合を80%以上にする。	○日頃のHRでの声掛け、家庭科の授業、保健だよりや食育だより、青翔ニュースなどをとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高め、行動できるようにする。	B	・コロナ禍のため自宅過ごす時間が増え、食に興味関心の目が向き、栄養だけでなく心身の健康にかかわりがあることに気づいた。家族に料理をふるまったり、自作の弁当を持参したりするなど、行動の変容が見られた。 ・夏休みの課題の内容や生徒目線の食育だよりを製作中だがテーマの捉え方など、食への関心の高さを感じることが出来るようになった。	B	・コロナ禍において健康や食に関することへの意識が高まり、自分が口にしている食品についても興味を持ってくれるようになった。しかし、朝食摂取率は87.8%と目標を超えることができていないが、朝食欠食の生徒の状況がとも気になるところである。生活面、家庭内の問題等改善が必要と思われることへの具体的な行動を起こす必要があると考える。おにぎりなどの軽食を準備するなど。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	○各担当分掌や係で業務や会議の縮減を図る。 ○定時退勤日を確実に実践し、職員一人一人が日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務改善の意識を高める。	B	・作業や会議時間の縮減に関して呼びかけを行うことで、効率的に業務を進める意識が高まった。 ・時間外業務時間の平均は、7月以降は3か月連続で前年度、全前年度を下回っている。	B	・形式的な会議の削減、行事の精選を行うとともに、作業や会議時間の縮減に関して呼びかけを行うことで、効率的に業務を進める意識が高まった。 ・時間外業務時間の平均は、多くの月で前年度、全前年度を下回っている。 ・職員の多忙感は払しょくされていないのが現状であり、業務分担の平準化をさらに進める必要がある。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○キャリア教育・進路指導	◎キャリア教育の充実による進路意識の向上	○1、2年生は、キャリア教育に関する年度末の調査で「働くことの意義について考えることができた」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 ○3年生は、進路決定率を100%とする。	・「キャリア教育支援事業」や地域の力を活用し、総合学科に特化した内容を実施する。 ・面接、特訓、個人指導等様々な機会を通じた生徒の進路希望や進路適性について理解を深め、職員間での情報共有を密に行い、効果的な進路指導につなげる。	C	・「キャリア教育支援事業」は商業、福祉、理科で今後実施予定である。インターシップ発表会や後期実施予定の校内での進路ガイダンスやそれに伴う事前事後指導を通じ、更なる進路意識の向上を図りたい。 ・3年生の就職決定率は現在75%程度である。進学は11月以降にほとんどが判明する。引き続き学年団と連携し全員決定を目指す。	A	・コロナ禍のため「キャリア教育支援事業」で一部計画通りにならなかった。 ・就職進学に関わる指導やインターシップ、校内進路ガイダンス等を通じ、自己のキャリア形成の意識が高まり、年度末の調査で「働くこと」の意義について考えることができた」と回答する生徒の割合が全学年で80%以上となった。 ・3年生の進路決定率100%を達成できた。
○開かれた学校づくり	○地域との連携(地域と連携した教育活動と広報活動の充実)	○商品開発や介護実習など、各系列ごとに地域と連携した取り組みを充実させ、地域に発信する。生徒が地域のニーズを学び、地域のために活動する経験を3年間で100%にする。	○商品開発など既存の活動を地域や中学生に伝える工夫(学校HP、学校パンフレット、青翔ニュース、学校説明会)を行う。 ○地域のニーズを学び、地域のために解決策を考える中で生徒たちの成長を総合学科発表会で報告する。	B	・各系列や部活で地域と連携した取り組み(介護実習、アサリプロジェクト)などを実施した。活動の様子は、HP、青翔ニュース、学校説明会などで地域や中学生に伝えた。体験入学は夏休みに計画したが、秋に実施。 ・「先輩と語る会」を企画し、地域で働く先輩たちの話を聞いた。在校生にとって、高校で何を学ぶべきかを考える機会となった。	B	・各系列で商品の販売先開拓、名護屋城博物館での実習、プラスチックゴミ問題などに取り組んだ。活動の様子は、HP、青翔ニュースで地域に伝えた。総合学科発表会に向けて準備を重ね、オンラインであったが3年間を締めくくる報告ができ、ケーブルテレビで紹介できた。YouTube配信は課題克服に今後取り組む。 ・地域について学び、地域のために活動する経験は積み重ねることができた。
○環境整備と美化	○綺麗で安心な環境づくり	○校内が快適な環境となるよう整備点検に努め、ゴミの持ち帰りや分別をはじめ校内環境美化や整理整頓に取り組んだ生徒の割合を80%以上にする。	○定期安全点検を隔月で実施する。 ○各クラス美化係による校内のゴミ拾いを定期的に行う。 ○さわやか清掃活動(校外ボランティア活動)を前・後期1回実施する。	B	・各クラス美化係による校内の重点箇所の清掃を実施した。後期にも活動を計画している。 ・熱心に活動してくれる生徒も増え、校外活動、校内活動ともに成果が上がった。地域に愛される活動を目指したい。後期にも1回予定している。	B	・トイレのスリッパの整理整頓を支援するために、各クラス美化係で教室棟トイレに足形のペイントを施した。定期的な活動を目指して、係で話し合いの場を設け、身の回りの環境整備を見直すところから進めていきたい。 ・年2回のさわやか清掃活動を職員・生徒協力のもと計画どおりに実施できた。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・どの評価項目も、おおむね達成できているという評価だった。次年度は個々の課題について、さらに取り組みを深めたい。 ・キャリア教育に関しては、卒業学年の進路決定も100%を達成できた。昨年度断念した2年生のインターンシップも今年度は実施でき、進路指導の取り組みは順調に遂行できた。 ・地域連携においては、各系列で活発に取り組んできたが、今年度は新たな連携授業も実施できた。情報発信、広報の効果も上がっており、次年度はさらに地域を巻き込んだ取り組みを行いたい。 ・美化活動、環境整備など生徒を主体とした取り組みが実施できた。次年度はさらに生徒が主体的に関わる取り組みを増やしていきたい。
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------